

未来に輝く先輩たち

Messages from Alumni

都立日比谷高等学校
ケンブリッジ大学

是安 真花さん

[2019年度卒業]

自分の手を喜んで人のために貸せる

そんな人間になりたい

私は高校2年生の夏から単身でイギリスに留学をし、現在英国のケンブリッジ大学にて自然科学を勉強しています。帰国子女ではない私が留学しようと思えたのは、武蔵野東中学校で経験した一貫した英語を「使う」授業のおかげだと思います。英語のニュース(CNN等)を聞いて内容を推測するという授業を今でも覚えていて、ニュース特有の独特な言い回しに最初は全く聞き取れませんでした。少しずつ自分の中で成長を感じられるのがとても楽しかったです。

また、東中で自分を発信、表現する力が身についたと思います。スピーチコンテストや特別進学学習の時間、また部活動等さまざまな場面において自分の意見をわかりやすく、そして的確に伝える必要性がありました。特進の時間に(偶然にもケンブリッジ大学の入試で使用された)「自分の腎臓を売ってもよいか?」という決まった答えがない問いに対して討論を進めたことが

印象に残っています。集団討論の練習の一環でしたが、その時に友人がとても分かりやすく論理的に自分の意見を組み立てているのを聞いて、とても刺激を受けました。現在大学ではエッセイの課題が多く出ますが、中学で学んだロジカルなアプローチは今もとても役に立っています。

そして、何よりも在学中に私を成長させてくれたのは、ダンス部の存在だったと思います。努力を惜しまない姿勢、粘り強く取り組む力、自分と仲間を信じる力、全てが今の私を後押ししてくれています。留学中、特に大学では授業や周りのレベルがとても高くなっていくのに必死ですが、ダンス部で頑張れたことが自信となって現在も踏ん張ることができています。

このような私の経験が今後どのような形で社会貢献できるか分かりませんが、これからも、たくさんの背景を持った人と関わり、経験を積み、自分の手を喜んで人のために貸すことのできる人間になりたいと強く思っています。





未開拓で答えが
わからない問題に
挑んでいきたい

一橋大学
ソーシャル・
データサイエンス学部
川崎 北斗さん
[2020年度卒業]

私は東中を卒業後、都立国立高校を経て、現在一橋大学のソーシャル・データサイエンス学部の2期生として、社会科学とデータサイエンスとを融合した分野を学んでいます。東中を卒業後、間違いなく糧となっているのは、プランノートで培ったPDCAサイクルを実行する力だと実感しています。

直近数年間で、ChatGPT等のAIが格段に進化したと感じている方も多いのではないかと思います。この分野を学んでいる以上、AIをはじめとするIT分野の急速な進化に対応していかなければならない、と常日頃から意識させられている状況で生きてくるのが、まさにPDCAサイクルを実行する力だと思います。

実際に、大学入学当初は単なる「分析者」をゴールにしていたのですが、現在のゴールは「教育分野の政策提言」に変わり、この短い期間でゴール自体もゴールへの道筋も、何回も変えました。さらに将来は、また違う道を目指していると思います。それ

でも前に進めるのは、目標までの道のりを自分で考えられるようになったことが大きいと感じています。

また、PDCAサイクルは意外な点でも役立っています。私は大学で体育会のバドミントン部に所属し、強くなるために自分のどこをどう改善すべきなのかを常に頭を働かせて考えています。常に考えながら練習をしていると、自ずと課題が湧き上がってきて、またそれを改善するために何が必要なのか考える、というサイクルはまさにPDCAサイクルに変わりないと感じています。さらにスポーツでは、個々の感覚頼みの部分も多く、自分の感覚で腑に落ちるまで試行錯誤したり、自分や他人を分析して課題を言語化していく過程で、探究科で養った力も役立ってきていると思います。

東中での3年間は、まさに今私が学業面や部活面で直面する、「正解のない問題」に立ち向かい続ける力を育ててくれました。これからは、「未開拓で答えがわからない問題」に挑んで、社会に貢献していく人間を目指していきたいです。

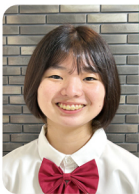
[2024年度卒業]



都立日比谷高等学校 **坂口 明日眞さん**

私が中学校生活で成長できたのは特別進学学習のおかげだと思います。特進では自分と同じ学力レベルの人たちが集まり実力にあった問題を解きます。そこでは激しい競争の世界があり、とても楽しい思い出となりました。競争のみだけでなく教え合いもまた特進の良いところだと思います。人によって得意、不得意は違い、それを補うように教え合うことはとても良い経験でした。また特進の仲間との対話は自分の視野を広げるきっかけにもなり、自分の意見を人にたくさん伝えた経験は今に活かしています。受験直前の12月、1月はとても不安でした。しかし特進での優しい先生の声掛けやサポート、同じ目標に向かう仲間たちの支えのおかげでその不安を乗り越えて合格することができました。特進の先生、仲間たちには本当に感謝しています。この充実した環境で得たものを糧にして、これからも自分の夢に向かって堂々と歩んでいきます。

私が中学校生活で成長できたのは特別進学学習のおかげだと思います。特進では自分と同じ学力レベルの人たちが集まり実力にあった問題を解きます。そこでは激しい競争の世界があり、とても楽しい思い出となりました。競争のみだけでなく教え合いもまた特進の良いところだと思います。人によって得意、不得意は違い、それを補うように教え合うことはとても良い経験でした。また特進の仲間との対話は自分の視野を広げるきっかけにもなり、自分の意見を人にたくさん伝えた経験は今に活かしています。受験直前の12月、1月はとても不安でした。しかし特進での優しい先生の声掛けやサポート、同じ目標に向かう仲間たちの支えのおかげでその不安を乗り越えて合格することができました。特進の先生、仲間たちには本当に感謝しています。この充実した環境で得たものを糧にして、これからも自分の夢に向かって堂々と歩んでいきます。



都立西高等学校 **栗林 あおはさん**

勉強をする上で、一番大切なことは何かと問われたら、私は追求心だと答えます。正解に辿り着いた時点で満足するものではありません。別の場合であればどうなるのか、他の問題に応用できないか、といったように多角的な見方で捉え直すのです。こうした考え方は、東中特有の探究科で身に付きました。確かに、問題に正解できればそれで十分です。しかし、疑問点を自力で解決したときや、別の解き方を見つけられたときに私たちは充足感に満たされるはずですが、私は日本語と英語のオノマトペを比較しました。そこで旺文社の全国学芸サイエンスコンクールに入選したことよりも、一層言語に興味をもてたこと、オリジナルの答えに辿り着けたことの方に価値を感じるのはそのためです。探究科ではテーマを設定し、そこから生まれた疑問を自分なりの答えで考察します。その過程で今までの認識を修正したり、新たな疑問が生まれたりします。この「考える」修正する」という道筋が様々な活動で生きてくるのです。

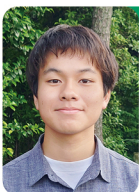
勉強をする上で、一番大切なことは何かと問われたら、私は追求心だと答えます。正解に辿り着いた時点で満足するものではありません。別の場合であればどうなるのか、他の問題に応用できないか、といったように多角的な見方で捉え直すのです。こうした考え方は、東中特有の探究科で身に付きました。確かに、問題に正解できればそれで十分です。しかし、疑問点を自力で解決したときや、別の解き方を見つけられたときに私たちは充足感に満たされるはずですが、私は日本語と英語のオノマトペを比較しました。そこで旺文社の全国学芸サイエンスコンクールに入選したことよりも、一層言語に興味をもてたこと、オリジナルの答えに辿り着けたことの方に価値を感じるのはそのためです。探究科ではテーマを設定し、そこから生まれた疑問を自分なりの答えで考察します。その過程で今までの認識を修正したり、新たな疑問が生まれたりします。この「考える」修正する」という道筋が様々な活動で生きてくるのです。



都立国立高等学校 **渋谷 芙喜子さん**

私は中学3年生の時に友愛会会長として学校全体の意見をまとめたり、行事の運営にあたって他の委員会との連携を行ったりしました。武蔵野東中学校の友愛会は生徒自身で作りができ、また、他校より行事が多いため生徒が主役となれる機会が多い学校です。友愛会会長として、どのように行事を盛り上げるかや他委員会との連携は苦悶することもありましたが、その分やり甲斐を感じられました。また少人数の学校であるからこそ生徒一人ひとりの意見取り入れて反映させやすかったため、「生徒自身で行事を作りあげられた」という実感を得られました。時には意見のぶつかり合いもありましたが、全員の思いをできるだけ形にしようとする中で、他者との向き合い方や責任感を学べたと思います。私にとって友愛会会長としての経験は本当に貴重な体験でした。

私は中学3年生の時に友愛会会長として学校全体の意見をまとめたり、行事の運営にあたって他の委員会との連携を行ったりしました。武蔵野東中学校の友愛会は生徒自身で作りができ、また、他校より行事が多いため生徒が主役となれる機会が多い学校です。友愛会会長として、どのように行事を盛り上げるかや他委員会との連携は苦悶することもありましたが、その分やり甲斐を感じられました。また少人数の学校であるからこそ生徒一人ひとりの意見取り入れて反映させやすかったため、「生徒自身で行事を作りあげられた」という実感を得られました。時には意見のぶつかり合いもありましたが、全員の思いをできるだけ形にしようとする中で、他者との向き合い方や責任感を学べたと思います。私にとって友愛会会長としての経験は本当に貴重な体験でした。



早稲田大学高等学院 **松本 力飛さん**

私は武蔵野東中学校で過ごした3年間で、多くの経験を通して成長することができました。普段の学校生活はもちろん、特に学校行事では、仲間と協力して一つの目標に向かって行動することで、強い一体感を感じました。例えば、スポーツ大会は、皆で協力する競技が多く、学校全体が盛り上がる行事の一つです。大会直前の練習期間には多くの生徒が意欲的に練習に励み、本番では全力で競技に取り組みました。勝利を目指して仲間と声を枯らして応援し合ったことは、今でも鮮明に覚えています。また、学園祭は、生徒が主体となって企画し、創り上げていく、やり甲斐のある行事です。実行委員が中心となり自由な発想で様々な企画を立案し、3年生の時は出店の装飾から運営までを自分たちの手で行い、成功させることができました。準備段階から当日まで、すべてが楽しく、大きな達成感を得られました。この中学校で過ごした日々は、私にとってかけがえのない宝物です。

私は武蔵野東中学校で過ごした3年間で、多くの経験を通して成長することができました。普段の学校生活はもちろん、特に学校行事では、仲間と協力して一つの目標に向かって行動することで、強い一体感を感じました。例えば、スポーツ大会は、皆で協力する競技が多く、学校全体が盛り上がる行事の一つです。大会直前の練習期間には多くの生徒が意欲的に練習に励み、本番では全力で競技に取り組みました。勝利を目指して仲間と声を枯らして応援し合ったことは、今でも鮮明に覚えています。また、学園祭は、生徒が主体となって企画し、創り上げていく、やり甲斐のある行事です。実行委員が中心となり自由な発想で様々な企画を立案し、3年生の時は出店の装飾から運営までを自分たちの手で行い、成功させることができました。準備段階から当日まで、すべてが楽しく、大きな達成感を得られました。この中学校で過ごした日々は、私にとってかけがえのない宝物です。